

目的 近年、既製服の発達によってデザイン・サイズ等が豊富になり衣服は選択されることば一般的になってきた。そこで、本研究では既製服の動作時における適応性の検討を目的とし、機能性が重視されるジーパンの着装実験を行った。日常動作に多くとられる前傾を伴った中腰姿勢において、デザインが異なるジーパンが人体腰部に与える影響およびジーパンの腰部変形を横断面より考察する。

方法 被験者は成人女子1名とし、資料は被験者に適合したストレート、スリム（ヒップボーン）、ウエストゴム入りの3種のジーパンとした。計測部位は、下半身に項目としたて基準線を10ヶ所とり、体表面およびジーパンに印した。裸体とジーパン着装状態にて、静立時と動作時における各部位の周径・長径をマルチン計測器を用いて測定した。さらに12項目より、胴囲・臍点囲・腹囲の3項目について横径・矢状径を測定し、スライディングゲージによる横断面の比較検討を行った。

結果 ① 動作時の裸体を基準として、ジーパンのずれを体側線上で比較すると、ジーパンは胴囲では後方へずれ、臍点囲・腹囲は前方へずれる。ただし、スリムの臍点囲では右体側線上で後方にずれが生じた。② 動作時において、ストレート・スリムの場合は前面で人体への圧迫がみられ、ストレート胴囲に著しい。ウエストゴム入りは人体圧迫が少なく、胴囲の形状は裸体と類似している。